

**授業概要**

「古文書（こもんじょ）」とは、歴史書や日記、物語、律令などとは異なり、様々な命令書、手紙、帳簿などを指します。歴史書のような編者の意図が込められた編纂物ではなく、当時の人々が暮らし働いた現場の生のモノ（一次史資料）です。日本史を研究するに当たって、生の史資料の威力は計り知れません。

本授業では、古代から中世にかけての時期の古文書の様式・読解について講義し、日本史の基礎知識を身に付けていただきます。また、適宜指名して実際に書き下し・現代語訳を音読していただくと共に、授業の中でアクティブラーニングを実施します。実際に博物館など古文書を展示している施設に見学・調査に行き、活字や写真ではない、先人たちが残した生の史資料の現物を体感していただきます。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	基礎的事項①（官職名、旧国名、干支、漢文基礎知識、史料と資料、など）
第 3 回	基礎的事項②（古文書について①）
第 4 回	基礎的事項③（古文書について②）
第 5 回	公式様文書①
第 6 回	公式様文書②
第 7 回	公式様文書③
第 8 回	公家様文書①
第 9 回	公家様文書②
第 10 回	公家様文書③
第 11 回	武家様文書①
第 12 回	武家様文書②
第 13 回	武家様文書③
第 14 回	見学(履修上の注意参照)
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末テスト

**到達目標**

- 古文書を実際に読解し、その内容を把握できる。
- ほかの日本史関連の期末レポートを作成する際に、実際に史資料を利用して執筆できる。  
\*必ずしも手書きの古文書を自力で読めるようにならなくてもよい。

**履修上の注意**

- 授業では、書き下し文・現代語訳も示すが、あくまで返り点など漢文の基礎知識が必要。
- 博物館学芸員資格取得を目指している学生は受講を勧める。
- 私語など厳禁。
- 見学の時期は、仮に第 14 回としているが、博物館などの展示状況などによって決定するため、別の回になる場合あり。

**予習・復習**

【予習】事前にレジュメを配布するので、掲載された古文書の読み下し・口語訳を音読できるようにすること。

【復習】予習で読めなかったところ、誤ったところを確認し、次は読めるようにすること。また古文書の内容を把握すること。

**評価方法**

学期末に実施する試験と、毎回授業時のコメントペーパーで評価する。

試験（70%）、授業態度（コメントペーパー含む）（30%）

**テキスト**

教科書は指定しない。参考書：漢和・古語・日本史などの辞典類。

その他、関係する文献について、授業中に適宜紹介する。